

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	胃がん	
	タイプ	臨床専門情報（専門医向け）	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Total gastrectomy with dissection of lymph nodes along the splenic artery: a pancreas-preserving method	
	論文の日本語タイトル	脾動脈周囲リンパ節郭清を伴う胃全摘術—脾温存術式	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 2 ）	
	ガイドライン上での目次名称		
書誌情報	研究デザイン	1.比較 2.メタアナリシス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.コホート研究 6.症例対照研究 7.横断研究 8.症例報告 9.その他 （ 5 ）	
	Pubmed ID	11034244	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Annals of Surgical Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	7	
	号	9	
	ページ	669-673	
	ISSN ナンバー	10689265	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2000 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Hiroshi Furukawa	Sakai City Hospital, Sakai, Japan
その他著者 1		Masahiro Hiratsuka	Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease, Osaka, Japan
その他著者 2		Osamu Ishikawa	Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease, Osaka, Japan
その他著者 3		Masataka Ikeda	Sakai City Hospital, Sakai, Japan
その他著者 4		Hiroshi Imamura	Sakai City Hospital, Sakai, Japan
その他著者 5		Seizo Masutani	Sakai City Hospital, Sakai, Japan
その他著者 6		Masayuki Tatsuta	Sakai City Hospital, Sakai, Japan
その他著者 7		Takashi Satomi	Sakai City Hospital, Sakai, Japan
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	進行胃がん手術に対する脾動脈周囲リンパ節郭清における脾尾部温存の意義を検証する	
	研究デザイン	ランダム化試験	
	セッティング	脾尾部合併切除 55 例（A 群） 脾尾部温存 55 例（B 群）	
	対象者	1981 年から 1989 年に進行胃がんに対する手術が行われた 110 名。1) PS 0/1, 20-75 歳 2) 胃上部 2/3 の進行胃がん 3) 深達度 MP-SE、リンパ節転移 N0-N2 4) 血算、心機能、肝機能、腎機能、呼吸機能が正常範囲 5) IC 取得	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず（13 ）	
	介入（要因曝露）	胃切除術 D2（Roux-en-Y 再建）	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1. ○ 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	2	手術のリスク（出血量、手術時間） 術後合併症、在院期間、術後耐糖能	1. 主要 2. ○ 副次 3. その他（ ）
	3		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	4		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	5		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	6		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	7		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	8		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	9		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	10		1. 主要 2. 副次 3. その他（ ）
	主な結果	5 年生存率（A 群 80% vs B 群 76.7%、NS）脾動脈周囲の郭清リンパ節の個数（4.6 個 vs 4.1 個、NS）出血量（994ml vs 904ml、NS）縫合不全/脾液漏（9 症例 16% vs 7 症例 13%、NS）術後在院期間（46.1 日 vs 41 日、NS）術後 1 年目の耐糖能検査（糖尿病 6%および糖尿病疑い 33% vs 正常、 $P < 0.05$ ）	
	結論	手術のリスクと術後の耐糖能からみて、脾尾部温存術式はより一般的に行われている脾尾部合併切除に比べて優れている。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	慶應太郎
	レビューワーコメント	著者らの述べている結果は、臨床的にも実感するところであるが、これを RCT で検証した優れた論文である。難易度の高い手術であり、著者らは触れていないが、術者の経験症例数、患者の肥満度（BMI）などが結果に影響する可能性もある。

本構造化抄録は平成 15 年度厚生科学研究費補助金「医療技術評価総合研究事業」研究課題名：胃癌診療ガイドラインのデータベース化に関する研究（主任研究者：北島政樹）において使用された。本フォーマットは日本医療技能評価機構より供与された。